

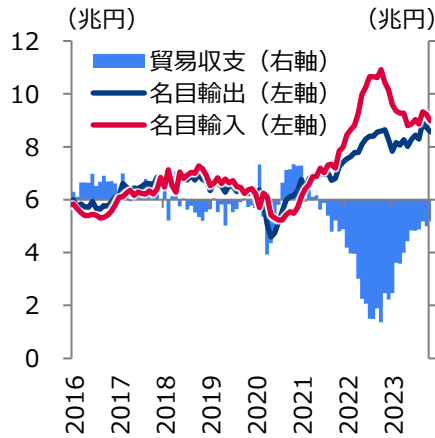
日本

貿易統計 (2023年11月)

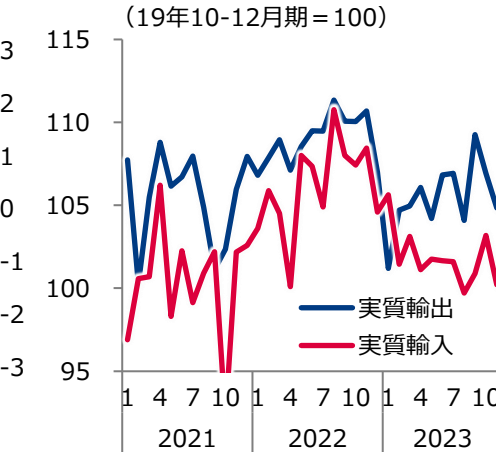
特殊要因もあるが、米欧向け輸出に減速感

政策・経済センター
堂本健太
03-6858-2717

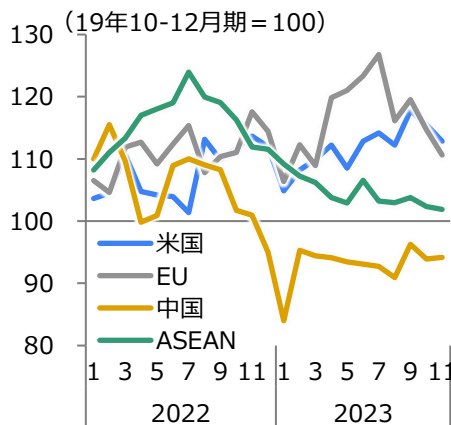
1 名目輸出入・貿易収支



2 実質輸出入



3 実質輸出 (地域別)



4 世界半導体販売額 (前年比)



評価ポイント

今回の結果

- 23年11月の貿易収支 (季調値) は、▲4,089億円と30カ月連続の赤字となった (図表1)。名目輸出 (前月比▲1.8%)、名目輸入 (同▲2.7%) とも減少する中、輸入の減少幅が大きく、貿易赤字幅は前月から縮小した。
- 価格・為替変動の影響を除いた実質輸出 (当社試算、季調値) は、11月前月比▲1.9%と2カ月連続で減少した (図表2)。実質輸入も11月同▲2.9%と減少し、23年に入り横ばい圏で推移している。
- 実質輸出について地域別にみると、米国向け (前月比▲2.3%)、EU向け (同▲3.5%) の減少幅が大きく (図表3)。米国向けでは、自動車関連輸出の落ち込みが大きく、ストライキにより米国自動車工場の稼働が抑制されていた影響が大きいとみられる。EU向けでは、機械関連輸出の落ち込みが大きい。

基調判断と今後の流れ

- 貿易赤字は縮小傾向にあるものの、そのペースは緩やかになっている。先行きについて、海外経済の減速を背景に輸出は力強さを欠くとみられ、現状程度の貿易赤字幅が当面は続く見通しである。
- 実質輸出は、特殊要因の影響もあるものの、堅調の続いていた米欧向けを中心に減速感がみられる。先行きは、横ばい圏の推移を予測する。米国において既往の利上げによる景気抑制効果が顕現化することが、輸出の下押しに作用する。一方、24年にかけて半導体サイクルの好転が見込まれることなどが輸出の下支え要因とみている。世界半導体市場統計 (WSTS) によると、世界半導体販売額は10月前年比+4.9% (9月同+0.3%) と既にプラスに転じており (図表4)、24年通年では同+13.1%との予測が示されている。
- もっとも、世界経済の先行き不確実性は高く、輸出の下振れリスクは大きい。主な下振れ要因として、①米国経済の失速、②中国経済の急減速、③地政学リスクの高まりを背景とした世界的な生産・物流の混乱、などが挙げられる。